

パブリックコメント実施結果

小牧市地域包括ケア推進計画（案） についての意見募集

1 意見募集期間

令和6年1月16日（火）から
令和6年2月14日（水）まで

2 意見募集の周知方法

- (1) 広報こまき 1月号
- (2) 市ホームページ

3 資料閲覧場所

- (1) 小牧市役所（地域包括ケア推進課、介護保険課及び
情報公開コーナー）
- (2) 東部・味岡・北里の各市民センター及び図書室
- (3) 西部コミュニティセンター（ゆう友せいぶ）
南部コミュニティセンター（ふらっとみなみ）
- (4) 市ホームページ

4 提出された意見の件数

1名から計2件

(参考)意見提出方法の内訳(単位 人)

提出方法	郵送	メール	ファックス	持参	計
人数	0	1	0	0	1

5 提出された意見と市の考え方について

広報こまき「4月号」にて実施結果を公表し、資料閲覧場所において、市の考え方を公表する予定です。

※公表期間：令和6年4月1日（月）～令和6年6月30日（日）

6 提出された意見と市の考え方について (内容)

No	意見の概要	市の考え方
1	<p>一人暮らし高齢者の孤独化や孤立化を防ぐ施策の充実を望みます。加えて孤独死の防止、そして一人暮らし高齢者が亡くなったときの適切なフォロー、死後事務の円滑な処理、空き家問題に進展させない方策の整備を望みます。</p> <p>10 頁に、65 歳以上単身高齢者のみの世帯数（「のみの」は不要では、「単身高齢者世帯」かと思います）が、令和 5 年時点で、9,340 世帯、全世帯の 13.4%とあります。驚きました。これは更に増えていくと思われる。民生委員による定期訪問の対象となる一人暮らし高齢者の現時点の登録者数が約 2,000、緊急通報システム設置数がそのうちの 1,200 程ということを知りました。その数を世帯の実数に近づける努力を期待します。</p> <p>一人暮らし高齢者であっても、日ごろ連絡が付く親族等がおれば心配は軽減されるでしょう。問題は、子のいない人、連絡の付く身内がない人、相続人が存在しないまたは不詳の人です。そのようなハイリスク世帯の把握が重要と考えます。それを把握するまたは抽出する取り組みを望みます。</p> <p>例えば、市の介護予防把握事業「フレイルチェック」調査の質問票に、連絡の付く身内の有無等の質問項目を付加し、これの回答からハイリスク世帯を把握するというアイデアはどうでしょうか。</p> <p>ハイリスク世帯が特定できたら、その人に対して、民事信託や任意後見、リバースモーゲージやリースバック、ACP やリビングウィル作成等、これらに関係分野部局との連携または協働の上、働きかける体制づくりが肝要と思います。</p>	<p>一人暮らし高齢者の方への支援につきましては、民生・児童委員にも協力をいただきながら、一人暮らし高齢者登録や食の自立支援サービス、緊急通報システムなどによる安否確認、新聞配達店等の事業者との高齢者等見守りネットワークの構築による見守り等の事業を推進しております。</p> <p>10 頁の「65 歳以上単身高齢者のみの世帯数」という表記については、ご指摘のとおり改めさせていただきます。今後もますます高齢化が進む中で、親族がいなかったり、近くに連絡をとれる人がいないなどといった、いわゆる身寄りのない人への支援については、重要な課題の一つであると認識しており、地域包括支援センターをはじめとした福祉・医療の専門職での会議でも対応方法の検討を進めている状況であります。</p> <p>また、現在は、70 歳になられる人や過去 3 年間に医療機関や健康診断の受診履歴がない人を対象にフレイルチェック質問票を送付し、介護予防が必要な人を把握するとともに、一人暮らしであると回答した人が一人暮らし高齢者登録につながるよう、回答者の情報を民生・児童委員に提供しております。一人暮らし高齢者登録の緊急連絡先の記入欄で、身内のいない人の把握が可能であると考えられますので、今後はその世帯に対する働きかけについて、いただいたご意見も参考に、必要なサービスや情報が届けられるよう、検討を進めてまいります。</p>

No	意見の概要	市の考え方
2	<p>冷蔵庫を緊急時に備えた情報保管庫として活用する安心カプセルのアイデアは素敵と思いました。何かあったら冷蔵庫を見よ、という標語や行動が市民全体に浸透すれば、救急隊や駆け付ける支援者等の強力なツールになると思います。災害時要支援者に限るのではなく、単身生活者をはじめ市民のすべてがこのアイデアを取り入れるキャンペーンを進められたらどうでしょうか。</p> <p>障がい福祉課が配布している災害時緊急情報カードも冷蔵庫を第一指定保管場所とされたらどうでしょうか。</p>	<p>安心カプセルは社会福祉協議会が中心となり、民間企業からカプセルの寄付を受けて実施している事業であります。安心カプセルのセットには、玄関扉の裏や冷蔵庫等に設置するシールとマグネットも付属しており、救急隊等が発見するための目印としております。当初は対象を災害時避難行動要支援者に限定しておりましたが、区が作成する独自の名簿に掲載されている人にも対象を拡大し、地域の見守り活動に活かしていただいている状況であります。いただいたご意見は社会福祉協議会と共有させていただきます。</p> <p>また、本市で配布している、薬の情報や緊急連絡先等を記載する「安心御守」につきましては、財布などに入れて携帯したり、安心カプセルに入れて保管するといった方法で運用しています。</p>